

## 松峯沢(下降)

1984年7月15日

L

11:50沢に降りる。降りた地点より50m程上流に行くと、1:1のはっきりした二俣があった。

この沢も相変わらずナメの沢かと思ったが、ナメのあったのは最初のうちだけで、あとは小滝が2、3あるのみの平凡な沢であった。

途中屋食にするが、食べ始めたとたん雨が降ってきた。誰かが言った。「大西さんと一緒じゃ仕方ない。」楽しいはずの屋食も早々に切り上げ、先を急ぐことにする。

少し歩くと、倒木群がある。朽ちかけていて、体重のある人は、枝に登るたびに「バキッ」と枝を折っている。かなり長く続いたように感じた。

ここを抜けると、今度は沢が伏流になっていて、石の上を歩くだけになる。伏流が終わった所はもう白根沢との出合であった。はずれの沢であった。

(記・

【タイム】 下降開始(11:55)→白根沢出合(12:45)

## 布入川支流後沢

1984年8月9日

L

布入部落の少し先に車を置いて、部落の中を通り布入川に入る。雪解けによる増水を見越していたが、もう水もぬるみ、水量も少なかった。後沢出合までは滝が1つと砂防ダムが1つあった。

10:05後沢出合。後沢に入るとすぐ、沢が右に曲がり、その先にF<sub>1</sub> 8mが現われた。左より登り、右へ斜上して越える。

上はナメである。右より瀑滝をかけた支沢があって、本流は小滝が続き、ナメが随所に見られた。

やがて踏跡が沢を横切る。ここから焼松よりの道にかかる丸木橋の所まではヤブコギをしながらの進行となった。

丸木橋を過ぎると、今度は沢が大きく左へ右へと曲がる。兩岸の所々にスラブが見られるが、沢の方は一部にナメが出てくる程度で平凡。

ミニゴルジュを過ぎ、左右から支沢を合わせた先で12mの滝。真中をシャワーで直登できそうにも思えたが、右側を直登する。上部が少し不安定なので、長いシュ

に向かう。

この沢は、懸垂下降した滝以外はほとんどが斜瀑で、しかもホールド、スタンスが豊富なので、すべて楽々クライミングダウンできた。遡行するにしても、楽しい沢だろうと思う。 (記)

【タイム】 下降開始(9:50)→下降終了(11:40)

## カラツ沢

1984年7月15日

L.....

白根沢にかかる橋を渡った所に車を置き、ワラジを着け白根沢を遡る。白根沢の沢幅は広く、ナメも美しい。が、クモの巣には閉口する。背の一番高い大西さんを

先頭にさせて、クモの巣払いをしてもらう。

歩き初めてから約1時間、目的のカラツ沢の出会いに着く。一休みしてから遡行開始。

白根沢の続きで、ナメは続くが、沢幅は狭い。10分程進むと8mの滝が行手を阻む。直瀑で、どうも直登できそうもないので、右側を捲く。が、落口の両端が切り立っているため、アップザイレンで降りる。

この先1mの小滝がある。ここを越える時にハブニング。大西さんが登った直後、「ガラガラ」と石が落ちてきた。次の僕にあやうく当りそうだった。カモシカが落としたみたいだ。

この後は平凡な沢歩きで、所々に倒木があり、苦勞する。

しばらくすると水もなくなる。尾根を越えて松峯沢に入ることを考え、11:10遡行を打ち切って枯れたスラブ状の枝沢に取り付く。 (記)

【タイム】 出合(10:20)→遡行終了(11:10)

